



自殺予防教育プログラム実施報告書

学校名	北海道長沼高等学校
-----	-----------

(1) 教職員間の共通理解を図る研修等の実施

研修等の実施日	令和5年6月2日(金)	研修参加人数	18人
研修内容	自殺予防教育及び人権教育について		
研修に参加した教職員の声	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の人権教育の歴史を俯瞰し、一人ひとりが人間らしく生きることのできる社会をつくっていくことの大切さを学ぶことができた。 ・地域社会が抱える多様な課題を学び、生きづらさを抱える社会的要因の一端を理解することができた。 		
研修等で使用した資料名	独立行政法人教職員支援機構 令和4年度人権教育推進研修 講義資料		

(2) 「自殺予防教育プログラム」の実施

	実施状況（主な実施内容、アセスメントツール等による生徒の変容、生徒の感想等）	
A 援助希求的 態度の 育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実践の概要 楽しく参加できる話し合いの場づくりを参加者と協力して取り組もうとする気持ちとスキルを養うことを目指し、総合的な探究の時間において、NPO法人日本ファシリテーション協会・行天二季子氏を講師に招き、講話及びグループワークを行った。 ○ 生徒の変容を促す工夫 話し合いのマナーを身に付けることができるよう、少人数グループで実施した。 ○ 生徒の変容 話し合いは自分だけでは思いつかなかったアイデアや発見に出会うことができる簡単で有効な手段。話している人を見る、否定・批判・横槍を入れない、頷く、質問する、感想を返すなど、実践する姿が見られた。 ○ 生徒の感想 <ul style="list-style-type: none"> ・「楽しみながら、話すことのマナーについて学ぶことができた。」 ・「頷く、相手の目を見るなど、当たり前のことであるが、やってみると、会話をより楽しくするために必要なことだとわかった。」 	
B 早期の 問題認識 (心の健康)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実践の概要 性の多様性及び性的少数者について理解を深め自分及び他者を大切にすることを養うことを目指し、総合的な探究の時間において、NPO法人レインボー・リソースセンターL-port から中谷衣里史を講師に招き、講話を行った。 ○ 生徒の変容を促す工夫 当事者意識の理解を深めることができるよう、ロールプレイを実施した。 ○ 生徒の変容 普段の学校生活の中で、互いの多様性を認め合い、尊重することができるようになった。 ○ 生徒の感想 <ul style="list-style-type: none"> ・「性を構成する4つの要素（性別・性自認・性表現・性的指向）の意味を教えていただいた。自分だけでなく周りにも相談できずに困っている人がいると思うので、少しでも助けられるように正しい知識を頭に入れ支えになりたい。」 ・「様々な『バリア』があることを知り、取り除けるように私自身が行動していきたいと思った。」 	

○ 実践の概要

コミュニケーションのあり方やストレスと向き合うときの思考方法や、望ましいコミュニケーションのあり方について学び、心の健康増進とよりより人間関係づくりを目指し、北海道医療大学教授・冨家直明氏を講師に招き、講話及びグループワークを行った。

C
ス
ト
レ
ス
対
処
能
力
の
育
成

○ 生徒の変容を促す工夫

具体的なアドバイスが得られるよう、心理学を専攻する大学生にチューターとして参加していただいて実施した。

○ 生徒の変容

人間関係を上手に作ることができず、孤立しがちな生徒が、行事などでクラスメートとコミュニケーションを図る場面が増えた。講話後に行った「心と身体チェック」の怒りやイライラに関する項目で、「誰かに怒りをぶつきたい気持ちが強くなった」などの項目で「全く当てはまらない」と回答した割合が大幅に上昇するとともに、「自分に居場所がないように感じる」と回答した生徒が、講話後の調査では「全く当てはまらない」「あまり当てはまらない」で100%となった。

○ 生徒の感想

- ・「スクールカウンセラーの人数が偏っていることや、うつ病になってしまう人がこんなに多いのだと思った。」
- ・「うつ病になってしまう人のポイントがたくさんあるし、一人ひとりの考え方は絶対に一緒ではないから、その人に合った接し方を見つけないかと思う。何かあったらプラス思考で考えて、その中から合理的な選択をできるようにしていきたい。」

